

牛久：学校周辺に見る自然

第2号 牛久自然観察の森

2019年4月9日発行

＜ 牛久自然観察の森で、“春”を楽しみました。～②草本 ＞

4月6日、花見をかねて歩いた牛久自然観察の森、今回は草のなかまを紹介ししょうかいます。



春の草花の代表の一つ、スミレかんきょうのなかま。環 境により見られるスミレちがも違い、明るくやや湿しめった落葉樹林らくようじゅりんや草原にタチツボスミレ、明るいかわがやや乾いた草原にはニオイタチツボスミレ、さらに明るく乾いた草原にアカネスミレ、やや暗しめく湿しめった落葉樹林らくようじゅりんにはマルバスミレが多く見られます。花や葉はも慣なれないとどれも同じに見えるかも知れませんが、よく見ると形やもようも違い、毛ちががあったりなかつたりけします。公園や道ばたに生えるスミレきょうみもありますから、興味ある人は見つけたらスケッチし、特 徴とくちょうを記録しておくとくちょうとよいでしょう。最後に、他に見られた草の花を名前だけあげます。【理科支援員：宮内】

スミレもいろいろ。日当たりよい草原や明るい落葉樹林らくようじゅりんにタチツボスミレ(上2枚)、明るくやや乾いた草原かわにニオイタチツボスミレ(中)、やや暗らくようじゅりんい落葉樹林かんそうにマルバスミレ(左下)、日当たりのよい乾燥した草原にアカネスミレ(右下)。



左からミツバツチグリ、ムラサキサギゴケ、カタクリ、カキドオシ。